

『生理学テキスト 第8版』

(第1刷～第4刷)

正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

●p.89 表5-2

(誤) 膀胱括約筋収縮 (α 1)

(正) 尿道括約筋収縮 (α 1)

●p.225 本文5行目

(誤) 血管では毛細血管 (5%) や動脈 (10%) には少なく、

(正) 血管では毛細血管 (5%) や動脈 (20%) には少なく、

●p.478 図19-21の図中と図説、および本文下から3～4行目

p.479 本文上から1行目および6行目

(誤) 内膀胱括約筋

(正) 内尿道括約筋

(誤) 外膀胱括約筋

(正) 外尿道括約筋

『生理学テキスト 第8版』

(第1刷～第3刷)

正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

●p.165 図10-1, p.166 図10-2および本文5行目, p.166 本文13～16行目

(誤) 毛様小体

(正) 毛様小帯

●p.267 上から17～21行目

(誤) K_{ATP} チャンネルは、内向き整流性 K チャンネル (心筋は Kir6.2) とスルホニルウレア薬の ピナシジル を結合するスルホニルウレア受容体 (心筋 SUR2A) の複合体である。心筋以外にも $I_{K,ATP}$ チャンネルは膵臓の B (β) 細胞におけるインスリンの放出の抑制に関係する (図 17-31 参照)。 ピナシジル は $I_{K,ATP}$ を抑制してインスリンの放出を増加する。

(正) K_{ATP} チャンネルは、内向き整流性 K チャンネル (心筋は Kir6.2) とスルホニルウレア薬の グリベンクラミド を結合するスルホニルウレア受容体 (心筋 SUR2A) の複合体である。心筋以外にも $I_{K,ATP}$ チャンネルは膵臓の B (β) 細胞におけるインスリンの放出の抑制に関係する (図 17-31 参照)。 グリベンクラミド は $I_{K,ATP}$ を抑制してインスリンの放出を増加する。

●p.377 上から1～3行目

(誤) 下唾液核からは、副交感神経の顔面神経 (VII) が顎下神経節に達し、節後線維が顎下腺および舌下腺を支配する。上唾液核からは副交感神経の舌咽神経 (IX) が耳神経節に達し耳下腺を支配する。

(正) 上唾液核からは、副交感神経の顔面神経 (VII) が顎下神経節に達し、節後線維が顎下腺および舌下腺を支配する。下唾液核からは副交感神経の舌咽神経 (IX) が耳神経節に達し耳下腺を支配する。

『生理学テキスト 第8版』

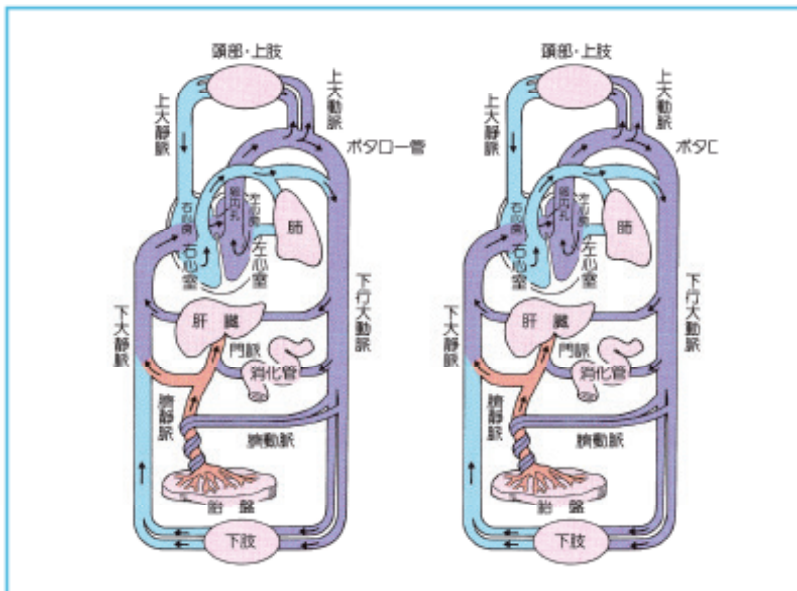
(第1刷～第2刷)

正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

●p.453 図18-10

(誤)



(正)

